

公益財団法人 神奈川県社会復帰支援センター

本部事務所  
〒211-0034 川崎市中原区井田中ノ町41番7号  
TEL(044)751-2756 FAX(044)400-4148

地域活動支援センター オアシス井田  
〒211-0034 川崎市中原区井田中ノ町41番7号  
TEL(044)400-4429 FAX(044)400-4148

地域活動支援センター パンブーハウス  
〒213-0014 川崎市高津区新作6丁目16-23 フォーブル新城  
TEL・FAX(044)852-0660

# 援護会ニュース

engokai news

2013.6.1

これからのよとい  
2013年7月13日(土)  
たかつ区健康福祉まつり  
2013年7月17日(水)  
第16回援護会主催  
ボウリング大会

## 就労支援の充実に向けて

### 「精神障害者就労支援センター」を立ち上げへ

#### 就労移行支援事業所の開設決定

公益財団法人神奈川県社会復帰支援センターは、1971年(昭和46年)わが国で最初の精神障害者社会復帰施設「川崎市社会復帰医療センター」開設に際して、精神障害者の社会復帰を支援する民間団体として1973年(昭和48年)設立されました。センターは「精神科領域における職業リハビリテーションの開拓および推進」を掲げて就労を希望する人達に働く場を確保、就労した人達には職場定着の支援を40数年に渡り行ってきました。統計上も具体的な変化として民間事業所の雇用状況やハローワークに

### 助け合い、助けられ、助けようとしての生きる姿勢を大切に

— 創刊号発行にあたり — 理事長 渡邊敏夫

この度、公益財団法人として年4回の会報を刊行するにあたり、私の障害者との関わりについて、今までの経験の中から幾つかを参考に「私」を紹介したいと思います。私が、精神障害者との関わりをもつきっかけとなったのは、平成9年10月に第1回「やさしい精神保健福祉講座」をたまたま受講したこと、講座終了後、修了生の集いが開催され同講座で学んだ知識を少しでも精神障害者のために生かしたいとの思いで、修了生全員の総意で、平成10年4月に精神障害者の地域生活支援のためのボランティアグループを設立することになりグループ名を「さくらんぼの会」としました。会員の多くが専業主婦の方

障害者の法定雇用率が18%から20%となり常用雇用労働者50人に1人の障害者を雇用することを義務付けられました。また、平成30年(2018年)を目指して「事業主に精神障害者の雇用を義務付ける」ことを柱とする障害者雇用促進法改正の動きがあります。時代の転換期を迎え、当公益財団法人は地域活動支援センター「オアシス井田」「パンブーハウス」の運営と精神障害者雇用促進事業を受託して「かわさき斎苑」に働く精神障害者の就労支援を実践してきた経験を活かして、当事者、家族、関係機関の期待に応えていくこととしました。

4月23日、当公益財団法人は理事会を開催して「精神障害者就労支援センター」を開設することを決定しました。開設場所は、川崎市中原区井田中ノ町41番7号の「オアシス井田」内に開設することとしました。また、平成30年(2018年)を目指して「事業主に精神障害者の雇用を義務付ける」ことを柱とする障害者雇用促進法改正の動きがあります。時代の転換期を迎え、当公益財団法人は地域活動支援センター「オアシス井田」「パンブーハウス」の運営と精神障害者雇用促進事業を受託して「かわさき斎苑」に働く精神障害者の就労支援を実践してきた経験を活かして、当事者、家族、関係機関の期待に応えていくこととしました。



援護会の新事業を担っていた人(誰もが既に知っている(水))をご紹介します。

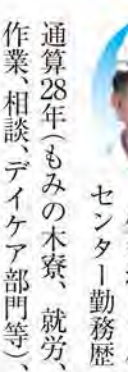


先日、田舎に帰り47年ぶりに田植えを手伝ってきました。手伝いと言っても苗を運んだり、田の隅に苗を植えたりする程度でしたが久しぶりに活き返った時間を過ごしました。ふと「田舎もいいなあ」とつぶやく。

昭和49年(1974年)4月、川崎市衛生局社会復帰医療センターから、この3月に退職するまでおよそ39年間働いて来ました。最初の職場は社会復帰棟復帰係で精神障害者の就労準備を担う部門からスタートして、

所長)は、援護会30周年記念誌に援護会の今後に向けて「就労支援の充実の方向」を示唆していましたが、その期待に応えていきたい。また、社会復帰支援センターの理事として陰日向に支援していた故江幡雄さんの思いを継承していければいいなと思っています。公益財団法人神奈川県社会復帰支援センターのサポーターとして、新たな川崎市の「精神障害者就労支援センター」を立ち上げて当事者や地域、関係団体の期待に応えていけたらいいなと思っています。よろしくお願ひします。

平成28年(2016年)もみの木寮、就労作業、相談、デイケア部門等、保健所歴12年(多摩、川崎)。



この度、就労移行支援事業所の開設に当たって、仕事仲間のお誘いを頂きました。些かの戸惑いや未知なるものへの挑戦に伴う不安は禁じえません。が、社会復帰医療センターや社会復帰支援センターを創出された故岡上和雄先生や、われらが師である江幡雄先生から受けた薫陶を胸に、障がい者の皆様と関係者の方々のご協力のもとに「働く夢の実現」に向けて、精一杯の努力をしたいと考えています。

関係者の皆様からのこれまでの叡智の結果と、今迄にも増しての社会復帰支援センターへの協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。趣味・野菜作り、コーラス





地域活動支援センターバンブーハウス

バンブーハウスは、地域に在住する障がい者の生活を豊かにすること、地域での障害理解を進めることを目的にしています。そのためのツールとして、調理作業・地域の方へのお弁当作りをメインの作業として行っています。

バンブーハウスでは、働くことを幅広く捉え、就労を目指す方から作業参加まで、目標地点の異なる個々の利用者に応じた利用方法・働き方をプランにし、社会参加の機会を提供します。

週2回(火曜・金曜)にお弁当を作ってお届けする(以下、配食)をメイン作業とし、その他の曜日には自分達で立てた献立の昼食作りと配食の下準備を行っています。作業には参加に応じて工賃が発生し、翌月給料としてお渡しします。また、作業へのモチベーション維持やコミュニケーション能力を培う場として、年間を通して様々なレクリエーションを企画しています。

年間行事として、花見、一泊バス旅行、暑気払い、忘年会があります。その他イベントやバザー等の地域の行事へ参加し、惣菜販売をしています。

活動を通じて、役割意識や責任感を持ち、社会的ルール

やマナーの学習、コミュニケーション力、生活能力の向上につながることを意識しています。特に、複数で進めなければいけない場合の調理は、段取りと自分の役割を考えつつ作業しなければならぬため、日頃とは異なるストレスでもあり、協調性・耐性を養う場ともなります。

また、食生活に関する知識を身に付け、衛生観念の習得にもなることで、自分の健康について考える機会を持てるようになります。

利用者の平均年齢は四〇代後半。最若手24歳、最年配66歳。一日の利用者数は月平均12名。

利用者の利用目的は退院後の生活リズムの安定、自炊練習の一環、仲間との交流、就労のためのステップアップ、等様々。利用者への就労支援はバンブーを足がかりにステップアップを目指す方のために就労支援機関と連携。就労実績は定着中の方4名(清掃2名、スーパー青果部、養護学校補助員)がいます。

配食数は年間約八千食。1回に80食、90食、別注があるものと百四十食超に。年間売り上げは約四百万円。食材購入費を引いた分をメンバー給料として還元しています。



活動を通じて、役割意識や責任感を持ち、社会的ルール



地域活動支援センターオアシス井田

地域活動支援センター「オアシス井田」の歴史は古く、昭和59年に開設した地域作業所「援護会作業所」が事業所の前身です。

当時は、下請け作業を中心に利用者として働いてきた。その後、作業所として活動するようになった。平成25年度は、年間の入った職員2名体制で活動を固めてまいります(苦笑)。今後は少しずつ会報の中でオアシスの魅力に触れていきますので、乞うご期待下さい。そして、応援の程よろしくお願ひ致します。



事業所紹介

作業所でしたが、非常に居心地良かったようで、事業所と共にメンバーは歳を重ねていきました。一般的に世間で言うようないわゆるゆるゆるの定年を迎えて第一線を退き、第二の人生を送るといことが彼らの次なるニーズとなりました。ある人は作業を続け、ある人はのんびりと、ある人はボウリングクラブ等の余暇活動などと、それぞれが第二の人生を探るようになり、援護会作業所は大きく高齢の障害者支援に舵をきることにしました。

精神障害者の就労支援を地域で何十年と継続して活動してきた援護会だったからこそ、障害者の高齢化問題に直面しても、援護会作業所以外の就労支援事業と並行して、障害者の第二の人生を支援する活

動にも力を入れてこられたのだと思います。そして今、オアシス井田は障害者の第二の人生を支援する活動から、就労を目指す経験の少ない若年層への支援も同時に展開できる事を見出し、緩やかな時間の流れの中で、それぞれのペースで働き自信を積み重ねていくことを支援しています。

平成21年4月に地域活動支援センター「オアシス井田」として一新された当事業所は、移行から五年経ち、現在は30代、70代の主に精神障害のある方が、それぞれの目的に合わせて曜日を決め、日中通所する事業所として月曜日、金曜日(9時~17時)開所し、午前と午後とに分けてプログラムを行っております。

平成25年度は、年間の入った職員2名体制で活動を固めてまいります(苦笑)。今後は少しずつ会報の中でオアシスの魅力に触れていきますので、乞うご期待下さい。そして、応援の程よろしくお願ひ致します。

川崎南部齋苑で精神障害者のメンバーが働き続けられる為のお手伝いをしていくジョブコーチの岡西です。まず始めに仕事の内容を紹介し、母子寡婦7名、メンバー5人(二日2人勤務)ジョブコーチ



精神障害者就労移行支援事業 南部齋苑



復帰しました

田島よし乃さん  
神奈川県出身  
好きな食べ物:ぬか漬け  
援護会ニューズ復刊おめでとうございます。長い年月お休みを頂いていたようですが、この度皆さんのご期待に応えてめでたく復刊を果たすことになりました。今後とも応援の程、よろしくお願ひ致します。



復帰しました

さて、私田島はこの四月に第三子の産休・育休より復帰致しました。第三子という事ですので、お休みを頂いたのは今回で三回目でございます。が、休みの度に楽しみにさせて頂いているのが、メンバーの皆さんの成長とオアシスの進化です。おかげ様で、オアシスは歴代の代替職員さんにも恵まれ、常勤職員が長期休暇に入っても、メンバーの声を大事にして活動に取り組む1名(ジョブコーチ)がいなくてもあります。援護会の仕事は給湯室での湯呑茶碗とコップ洗いです。ジョブコーチはその補助としてメンバーと一緒に働きます。勤務時間は11:30~3:30分までです。仕事の前の朝のミーティングで、メンバーの体調のチェック(眠れたかどうか、朝食はとったか等)を作業日誌に記入し、仕事に入ります。メンバー達も作業日誌を書きます。「仕事を終えた時、達成感があふれる」「話を聞いてくれる」等々の言葉を聞くと本当に仕事を続けたいと思えます。楽しく働きやすい職場にしてメンバー達が一年でも長く働いてほしいと願っています。

安田紘己さん  
栃木県出身  
好きな食べ物:みょうが  
援護会ニューズ復刊することになりました。とても嬉しく思います。今後、定期的に発行するということ、オアシス井田の日々の様子を少しずつではありますが、お伝えしていきたいと考えております。私安田はこの4月から育児休暇より復帰致しました。お休みを頂いている間、何度かオアシス井田に立ち寄らせていただきましたが、利用者の朝のミーティング同様、体調面や仕事上の困り事等をチェックしています。ジョブコーチになった最初の頃は、色々ともどいもあきらめかけていたのですが、今は楽しく仕事をしています。一緒に働くメンバー達も、休まず一生懸命やっています。この仕事をやりたくて良かったのはメンバーに「ジョブが側にくれる」だけで安心して仕事が出来るといって、仕事を終えた時、達成感があふれる。「話を聞いてくれる」等々の言葉を聞くと本当に仕事を続けたいと思えます。楽しく働きやすい職場にしてメンバー達が一年でも長く働いてほしいと願っています。

今年4月から、地域活動支援センターB型バンブーハウスの正職員になりました。一昨年の12月にオアシス井田の産休・育休代替職員として勤務していましたが、この度正職員としてバンブーハウスで働く事になりました。今まで地域との交流も少ない、治療に重点を置いていた閉鎖的な精神科病院で働いてきた経験は浅いため、日々学ぶ事が多く大変勉強になることばかりです。通われている方々にとっても、バンブーハウスの経験がその方の今後の人生に役に立つような、そして近い未来から遠い未来を一緒に真剣に考え、安心して目標に向かっていけるような傍に寄り添う支援を目指しています。今後ともよろしくお願ひ致します。



正職員になりました

伊藤美穂さん  
福島県出身  
趣味:食歩き  
今年4月から、地域活動支援センターB型バンブーハウスの正職員になりました。一昨年の12月にオアシス井田の産休・育休代替職員として勤務していましたが、この度正職員としてバンブーハウスで働く事になりました。今まで地域との交流も少ない、治療に重点を置いていた閉鎖的な精神科病院で働いてきた経験は浅いため、日々学ぶ事が多く大変勉強になることばかりです。通われている方々にとっても、バンブーハウスの経験がその方の今後の人生に役に立つような、そして近い未来から遠い未来を一緒に真剣に考え、安心して目標に向かっていけるような傍に寄り添う支援を目指しています。今後ともよろしくお願ひ致します。